

— 公開授業 —

学習構想案集



語り合い、見つめ直し、次へつなぐ。

荒尾市立八幡小学校

目次

1	本構想案集について	1
(1)	27のマトリクスについて	
(2)	学習構想案について	
(3)	授業参観シートについて	
2	27のマトリクス	2
3	学習構想案・授業参観シート	
	さくら学級 道喜 亜香里教諭	3
1	年 1 組 吉田 有伶教諭	6
3	年 1 組 坂本 恭兵教諭	9
	たんぽぽ学級 村上 正順教諭	12
4	年 1 組 徳永 朝美教諭	15
5	年 1 組 中村 界斗教諭	18
6	年 2 組 守屋 数人教諭	21

1 本構想案集について

(1) 27のマトリクスについて

本校では、荒尾市が推奨する「進化型あらおベーシック 8つの学習過程」に、令和7年度八幡小学校の「身に付けさせたい資質・能力」を関連付け、理想の児童の姿を27のマトリクスとして整理しました。縦軸には3つの資質・能力を、横軸には「進化型あらおベーシック」の8つの学習過程を配置し、それぞれの交点において、各学習過程で期待される具体的な児童の姿を言語化しています。

このマトリクスを基に、授業者は「集団解決」の場面をMy missionとして設定する場合もあれば、「問い合わせ」場面など、授業の特定の学習過程に焦点を当ててMy missionを設定する場合もあります。

つまり、「見通し」や「集団解決」など、授業の一部分に意図的に焦点を当てながら、自身の課題改善に取り組むための共通の視点として、本マトリクスを活用しています。

(2) 学習構想案について

本日、授業をご覧いただく際には、学習構想案の項目4「身に付けさせたい資質・能力の育成を図るために」に示されている「My missionにかかる手立てと期待される児童の姿」に注目してご参観ください。

その手立てがどの場面で機能していたか、期待した児童の姿にどこまでつながっていたか、改善の余地があるとすればどこかを見取っていただくことで、授業者・参観者双方にとって、学びの深い座談会につながると考えています。

(3) 授業参観シートについて

本日の公開授業を参観される際には、座談会での対話に向けて参観の視点を絞り、気付きや考えを整理していただくためのツールとして授業参観シートをご活用ください。

My missionの達成に向けた手立てがどのように機能していたかを中心にメモしていただくことで、授業後の対話がより具体的で実りあるものになると考えています。



進化型あらわべーシック8つの学習過程 × 令和7年度八幡小学校「身に付けたい資質・能力」

1 27のマトリクス

学習過程	解説	主体性	協働性	自律性
		自ら考え、進んで行動する	他者を理解し、互いに認め合いながらともに高め合う	自分に責任を持ち、最後まで粘り強くやり遂げる
0 前時の振り返り	これまでの学びを思い出し、本時のつながらりをイメージしやすくなる。反対して解決する良さ等の視点を明確にして書かせることがポイント。	これまでの学びを思い出し、本時のつながらりをイメージしやすくなる。反対して解決する良さ等の視点から、前時までの学習を進んで振り返っている。	本時の学習内容を習得するために、「何を学んだのか」「どのくらい分かって(てきて)いるのか」「うまくいったこと・いかなかったことは何か」「なぜ成功／失敗したのか」「なぜ成功／失敗したのか」等の視点から、前時までの学習を振り返り、進んで友達と伝え合っている。	本時の学習内容を習得するために、「何を学んだのか」「どのくらい分かって(てきて)いるのか」「うまくいったこと・いかなかったことは何か」「なぜ成功／失敗したのか」「なぜ成功／失敗したのか」等の視点から、前時までの学習を振り返り、自分の学習状況や理解度などを明確にしている。
1 問題の提示	本時のねらいを達成するために、教師が与えるもの。	視点を与え、問題に書かれていることを整理する力を身に付けさせる。	問題に対する疑問や、「分かっていること」や「問われていること」等を進んで表現している。	じっくりと問題に向き合い、問題に対する疑問や、「分かっていること」や「問われていること」等を明確にしている。
2 聞きもつ（気づき）	この問題で問われていることは何なのかといいう核心部であり、問題を一般化させたもの。	一人学びで全員が自分の考えを書いて、どうやって問題を解決するのか、友達と相談しながら書き、友達と相談しながら使って書かせせる。	どうやって問題を解決するのか、キーワードを使って自分の考え方や意見を持つ、進んで表現している。	どうやつて問題を解決するのか、自分なりの考え方や意見を参考にしながら、課題解決への見通しを明確にしている。
3 学習課題（めあて）の設定	この問題で問われていることは何なのかといいう核心部であり、問題を一般化させたもの。	一人学びで全員が自分の考えを書いて、どうやって問題を解決するのか、友達と相談しながら書き、友達と相談しながら使って書かせせる。	どうやつて問題を解決するのか、キーワードを使って自分の考え方や意見を持つ、進んで表現している。	どうやつて問題を解決するのか、自分なりの考え方や意見を参考にしながら、課題解決への見通しを明確にしている。
4 見通し	この問題で問われていることは何なのかといいう核心部であり、問題を一般化させたもの。	一人学びで全員が自分の考えを書いて、どうやって問題を解決するのか、友達と相談しながら書き、友達と相談しながら使って書かせせる。	どうやつて問題を解決するのか、キーワードを使って自分の考え方や意見を持つ、進んで表現している。	どうやつて問題を解決するのか、自分なりの考え方や意見を参考にしながら、課題解決への見通しを明確にしている。
5 自力解決	お互いの考え方や疑問点を出し合って交流し、自分の考え方を広げる一部の人の考察や発表などないよう全員が参加できるグループ活動の形を工夫する。	本時の課題やめあてに対する自分の考え方の根拠や理由を、図や言葉などで表現している。	ぶらぶらタイムで友達から情報を収集したり、教え合ったりしながら友達の考え方を進んで表現している。	本時の課題やめあてに対する自分の考え方の根拠や理由を、図や言葉を用いて、進んで表現している。
6 集団解決	キーワードを使って、めあてに対するまとめて行わせる。キーワードを使って、本日の学びを自分でまとめる力をつける。	提示されているまとめリード文を参考にし、キーワードを使って、その後の文を進める。	自分の考え方や意見、疑問を理解してもうとしたりして、これまで出された考え方や意見から、めあてについてどんなことが言えるかを進んで考察し、表現している。	自分の考え方や意見、疑問を理解してもうとしたり、友達の考え方や意見、疑問を理解しようとしたりしている。これまで出された考え方や意見から、めあてについてどんなことが言えるかを考察し、わかりやすく伝えたり、友達の考え方を聞いたりしている。
7 まとめ	今日の授業における自らの学びや成果と課題、展望等を綴らせることで、反対して解決する良さ等の視点を明確にして書かせることがポイント。	友だちのまとめを見直したり、自分の学びを一度深めたりしている。	提示されているまとめリード文を参考にし、キーワードを使って、その後の文を根柢よく丁寧に考えている。	提示されているまとめリード文を参考にし、キーワードを使って、その後の文を根柢よく丁寧に考えている。
8 振り返り			友だちと振り返りを共有し、友達の頑張りを認めたり、自分と異なる視点から気付きたたりすることで、これから学びに生かそうとしている。	何を学んだのか」「どのくらい分かって(てきて)いるのか」「うまくいったこと・いかなかったことは何か」「なぜ成功／失敗したのか」等の視点から、本時の学習について振り返り、キーワードを使って進んで表現している。

2 学習構想案・授業参観シート

さくら学級 自立活動 学習構想案

題材名「さくらちゃんのお誕生日パーティーをひらこう」(人間関係の形成、コミュニケーション)

場所:さくら教室
指導者:道喜 亜香里

1 My mission

次時の意欲につながる振り返りをどう取り入れるか。

2 題材について

(1) それぞれの生徒における題材観と指導目標

児童名	題材観	題材における指導目標
A児	お店屋さんの種類も複数にしておくことで、選択肢が増えて、友達の意見と自分の意見に折り合いを付けながら買うものを決める姿が期待できる。	自分の気持ちを伝えたり、他者の気持ちを受け止めたりすることができる。
B児	買い物をする前に、「さくらちゃんがしたいこと」の確認を行う。また、ペアで共有のチケットを持たせることで、枚数と買いたいものを照らし合わせるようにする。様々な条件を提示することで、友達の考えにも関心を持って話し合う姿が期待できる。	「これでいいかな。」「どう思う」と友達の思いを確認しながら、自分の考えを伝えることができる。
C児	これまでの学習にも登場してきた人形の「さくらちゃん」を題材にすることで、買い物をしてあげたいという意欲が高まると考える。また、条件を整理しながら話すことのできる相手をペアに選ぶことで、話し聞く意欲を高める。	自分の気持ちを相手に伝わる声の大きさで話したり、他者の気持ちを聞いたりすることができる。
D児	「さくらちゃんの思い」とチケットの枚数を照らし合わせるようにする。様々な条件を提示することで、自分の考え話すときに、わけが言いやすくなると考えられる。	自分の気持ちをわけも言いながら伝えたり、他者の気持ちを引き出したりすることができる。

3 本時

(1) 目標

- ・A児:自分の気持ちを伝えたり、他者の気持ちを受け止めたりすることができる。
- ・B児:「これでいいかな。」「どう思う」と友達の思いを確認しながら、自分の考えを伝えることができる。
- ・C児:自分の気持ちを相手に伝わる声の大きさで話したり、他者の気持ちを聞いたりすることができる。
- ・D児:自分の気持ちをわけも言いながら伝えたり、他者の気持ちを引き出したりすることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	資質・能力	指導上の留意事項			
				A児	B児	C児	D児
導入	10	0.どっちが好き? 1.前時までの学習を振り返る。 2.本時の問題を捉える。 3.めあてを立てる。	主	・わけを話す練習をしておくことで、本時の学習に安心して取り組めるようにする。 問 さくらちゃんの誕生日会のために、買うもの決めよう。			
				・「さくらちゃんのねがい」を示し、話し合いの根拠になるようにする。 ④ ペアで話し合って、考えをまとめよう。			
展開	5	4.課題解決への見通しをもつ。	主自	キーワード それもいいね。	これでいいかな。	声の大きさ	わけは～ どう思う?
	10	5.集団解決を図る。 (1)ペアで買うもの話し合う。	協	・相手の話をよく聞くよう日頃から声掛けを行っておく。 【具体的評価標準】 自分の気持ちを伝えたり、他者の気持ちを受け止めたりしている。(方法:発言)	・相手が自分の話を理解しているのか、確かめながら話すよう日頃から声掛けを行っておく。 【具体的評価標準】 友達の思いを確認しながら、自分の考えを伝えている。(方法:発言)	・声の大きさカードで適切な声の大きさを示す。 【具体的評価標準】 自分の気持ちを相手に伝わる声の大きさで話したり、他者の気持ちを聞いたりしている。(方法:発言)	・条件を板書しておくことで、わけが言いやすいようにする。 【具体的評価標準】 自分の気持ちをわけも言いながら伝えたり、他者の気持ちを引き出したりしている。(方法:発言)
	10	(2)全体で(1)の話し合い活動を振り返る。		・話し合い活動の様子のVTRを見て、自分のめあてを達成できたかどうかや、友達はめあてを達成しているかどうかの視点で振り返り、共有する。			
終末	10	6.学習したことまとめ。	主自	・振り返ったことをもとに、自分のめあてに沿ったキーワードを使ってまとめる。 ④ 話し合って考えをまとめることは、(違う考えでも「それもいいね。」)(相手に「どう思う?」と尋ねる。)(相手に聞こえる声の大きさで話す。)(わけも伝える。)			
		7.本時の学習を振り返る。	主協自	・本時の授業全体を視点に沿って振り返る。 ・一人一人の頑張りを花丸カードを渡すことで可視化する。			

4 「身に付けさせたい資質・能力」の育成を図るために

My missionにかかる手立て・期待される児童の姿

主体性	子どもたちの言葉でキーワードを作り、導入や展開でもキーワードを活用する。
協働性	「友達のよかったです」の視点を提示する。 友達と振り返りを共有し、友達の頑張りを認める姿。
自律性	メインの活動を動画で撮影したものを視聴させる。(視覚的に振り返ることができるようになる。) 動画での様子を見て、自分のめあてが達成できたのかじっくりと考えている姿。

5 実践の根拠となる資料

(2) 終末における「振り返り」の重要性について

「振り返り」は、子供たちが自分自身と対話し、「自分がその学習でどのように変わったのか」「新たな問いや課題は何か」「家庭学習や次の授業でチャレンジしたいことは何か」などを明確にすることをねらいとしています。

また、「まとめ」の活動において、学んだ内容を「知識・技能」として明らかにした後に、「振り返り」の活動において「何ができるようになったのか」、「何ができなかったのか」を子供たちに自覚させることは、習得した「知識・技能」を、「活用する力（思考力・判断力・表現力）」や「主体的に学習に取り組む態度」につなぐ上でも、重要な活動となります。

※「振り返り」の視点は、2～3点に絞り込むようにする。

- ① “いいな！”と思った友達の考えは何か？
（“いいな！”の観点は、その時の学習のめあてや中心発問に対応して変わります。）
- ② “納得できなかったこと”や“分からなかったこと”は何か？
- ③ 何ができるようになったか？なぜ、できなかったのか？
- ④ 学習の前後で自分の考え方や態度がどのように変わったか？
- ⑤ “新たな問い”や“課題”は何か？
- ⑥ “新たな問い”や“課題”をどのように解決したいか？
- ⑦ “学んだこと”や“気付き”を、生活や次の学習にどう生かすか？
- ⑧ 家庭学習で何を調べてみたいか？



※「振り返り」の発問の例

本時の「振り返り」では、

- ①分かったこと
- ②感想（日常場面と重ねて）
- ③参考になった友達の発言
- ④疑問に思ったこと（新たに考えた問い）

の4つを中心まとめましょう。

これから学習する「14歳の自画像～夢や目標に向かって～」について見通しをもって、次の学習につなげることができるように、本時の学習を振り返りましょう。

※研究指定校（H30～R1）である大津町立室小学校及び御船町立御船中学校の研究実践の例です。

【資料】熊本の学び推進プラン】

【振り返り・評価場面】

- コツ⑦：視覚的・具体的に振り返りや評価をする
- コツ⑧：子どもが評価活動に参加できるようにする

●コツ⑦：視覚的・具体的に振り返りや評価をする

振り返り・評価では、導入で説明した活動のねらいを達成できたかを振り返るようになります。子どもが客観的に自分自身の行動を振り返ることが難しい場合、**メイン活動の様子を動画で撮っておく**ことをおすすめします。動画を見たあとに感想を発表したり、振り返りシートに自己評価を記入したりするのも子どもが自信を高めるのに効果的です。評価は、できなかったことではなくて、できている部分に注目します。そして、活動のねらいと関連づけて具体的に評価します。

たとえば、コツ①のボールを転がして穴に入れるゲームであれば、「ボールをよく見たから穴に落ちたね」というようにです。そして、花丸カードやシール等、目に見える形で評価し、評価を残していくようにします。評価の方法は、生活年齢に配慮したものにするのも大切です。

●コツ⑧：子どもが評価活動に参加できるようにする

発表評価場面は、教師だけでなく友達からも評価してもらい、互いに認め合い、高め合っていく関係を作ることも大切です。

子どもが評価活動に参加できるように、教師の評価は長々と説明するのではなく、子どもが真似して行えるようにモデルを示すことが効果的です。たとえば、教師が子ども役となって、子どもに花丸カードを手渡しながら「がんばったね」と言って称賛します。これを子ども同士にも実際にやらせてみることです。

このような評価機会を積み重ねることで、評価場面を「人間関係の形成（かかわり）」や「コミュニケーション（はなす）」の指導内容を学ぶための学習活動として活かすことができます。

子どもの実態によっては、即時評価でないと理解することが難しい場合もあります。その場合は、活動直後の評価を中心にして、必要以上に振り返り・評価の時間が長くならないように配慮します。

POINT

集団指導の大きなメリットは、子ども同士が互いに活動に注意を向けたりやり取りすることを通じて学べること

授業参観シート

たくさんの先生方に参観いただけたことを、心よりお待ちしております。

なお、本日の座談会では、1の「『身に付けさせたい資質・能力』の育成を図るために」について協議できればと考えております。



1 My mission

次時の意欲につながる振り返りをどう取り入れるか。

2 「身に付けさせたい資質・能力」の育成を図るために

My mission にかかる手立て・期待する児童の姿	
主体性	子どもたちの言葉でキーワードを作り、導入や展開でもキーワードを活用する。 キーワードをもとに、自分の言葉で、進んで本時の学習を振り返ろうとする姿。
協働性	「友達のよかったところ」の視点を提示する。 友達と振り返りを共有し、友達の頑張りを認める姿。
自律性	メインの活動を動画で撮影したものを視聴させる。(視覚的に振り返ることができるようにする。) 動画での様子を見て、自分のめあてが達成できたのかじっくりと考えている姿。

3 参観者メモ

1	My mission の達成に 向けた手立ての有効性 ※ 本日の座談会では、本項目を中心 に協議を行う予定です。	
2	身に付けさせたい 資質・能力の育成について	
3	教科指導について	
4	教師としての在り方 (+の面をたくさん発見してください。)	

※ 参観者は、全ての項目を埋める必要はありません。

1年1組 音楽科 学習構想案

場 所: 1年1組教室

指導者: 吉田 有怜

1 My mission

自分の考えを広めたり、深めたりする活動の充実

2 題材構想

題材名	みんなで あわせて たのしもう <教材:「あいあい」(歌唱教材)>		
題材の目標	(1) 曲想とリズムや旋律などの音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、歌唱や器楽の技能を身に付ける。 (2) 音色、旋律、音の重なり、呼びかけとこたえなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように表現するかについて思いをもったり、曲や演奏の楽しさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。 (3) 歌声や楽器の音を合わせることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組み、友達と一緒に表現する楽しさを感じる。		
題材の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	① 曲想とリズムや旋律などの音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付いている。 ② 思いに合った表現をするために必要な、範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりする技能や、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。	① 旋律、強弱、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつている。	① 歌声や器楽の音を合わせることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の活動に取り組もうとしている。
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
友達の歌声や楽器の音を聴きながら、音や気持ちを合わせて表現しようとするとする児童			
題材を通した学習課題(題材の中心的な学習課題)		本題材で働くさせる見方・考え方	
こえや 音をきいて あわせよう		体の動きを伴った活動や互いに聴き合う活動を通して、友達の歌声や楽器の音をよく聴き、共に歌ったり、演奏したりする楽しさに気付く。	

3 本時

(1) 目標: 互いの歌声を聴き合いながら歌う。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	資質・能力	指導上の留意事項
導入	5	1. 交互唱の動画を見せ、問い合わせをさせる。	主	・単に交互に歌うのではなく、声の出し方や歌い方をまねることに気づかせる。 問 まねっこを楽しみながら歌うには、どのように歌ったらいいだろう。
		④ たのしくうたう くふうを かんがえよう。		
展開	5	2. 自分なりの考え方を持つ。 ・だんだん声が大きくなるように歌いたい。 ・手の動きをつけて歌いたい。	主・自 協	・以下のものをキーワードとして活用する。 強く 弱く 手を動かす はずむかんじ など
	5	3. 友達の考え方を聞きに行く。(ぶらぶらタイム)	主・協	・全員が自分の意見をもって交流できるよう付箋紙を活用する。
	8	4. グループで考え方をまとめ、練習する。	主・協	・同じところ、違うところの視点に沿って、自分と友達の考え方を比較させることで、考え方を広げたり深めたりできるようにする。
	12	5. グループごとに発表する。	主・協	広げる… 考えた工夫を友達に伝える。 深める… 友達の工夫を聞き、真似したいところをみつけ、自分の工夫に生かす。
	5	6. 全員で楽しく歌う。	主・協	【具体的評価規準】[技] 互いの声を聴きながら、声の出し方や歌い方をまねて歌っている。(方法: 演奏)
終末	5	7.まとめをする。 ④ たのしくうたうためには あいてをよく見て 大きなこえで うたったり、うごきをつけて うたったりして くふうするとよい。		

4 「身に付けさせたい資質・能力」の育成を図るために

My mission にかかる手立て・期待される児童の姿	
主体性	「やまびこごっこ」の学習で、子どもたちから出た言葉をキーワードとして提示する。 自分の考え方を進んで伝えたり、友達の考え方を理解しようとしたりする姿。
協働性	付箋紙に自分の考え方を書いて準備しておくことで、話し合いの際に自分の考え方を出しやすくする。 友達の考え方を聞き、自分と同じところや違うところを見つける時間を設定する。 自分の考え方を理解してもらえるようにわかりやすく伝えようとしたり、友達の考え方を理解しようとしたりする姿。
自律性	ペア、グループ、全体と学習形態を工夫する。考えた工夫を何度も表現し、試行錯誤したり、吟味したりできる場を設ける。 自分の考え方を理解してもらえるように粘り強く伝えたり、友達の考え方を何とか理解しようとしたりする姿。

6(1) 学び合い1(単純意見交換)

point

- ① 意見や調べた事実の単純な意見交換
(意見集約)
- ② キーワード(教科用語)活用

- ・自力やペア(隣・前後)や班学習等で分かったことや気が付いたことを出させる。
- ・赤・青ペンを持ち、ホワイトボードを見回る活動も考えられる。
- ・単純な意見交換にとどめさせ、学び合い2の考察につなげる。

☆ホワイトボードの欠点は「意見を動かせないところ」である。赤・青の線を引き合うことで、赤線を引かれた子どもは答えなければならなくなり、全員活躍につながる。

☆全員活躍のための手段として、ノート→短冊を利用する方法もある。短冊ならば一人一枚、常備できる。なるべく多くの子どもに活躍させるために、中グループ、教室前後での意見交換(構造化)をする。

point

② 立場を添え挙手

- ・「似ています」・「付け足します」
- ・「他にもあります」
- ・「比べて言います」



- ・「立場を添え挙手」とは、自分の意見が相手の意見に対してどう違うか、立場を添えて発表すること。発言意欲がわき、練り上げの交流が豊かになる。
- ・「前の〇〇とつなげて言います」「感想を言います」「もう少し詳しく言います」等の話し方もある。

【資料】「今、学びが変わる!!2020版あらおベーシックー改訂版ー】

学び合う場面の手立て

ねらいに応じて、ペア、グループ、全体と学習形態を工夫しましょう。

また、根拠を明らかにしながら、考えを説明させましょう。

資料に、〇〇と書かれていることから、△△ということが分かります。



【資料2 KYO サポ ~小学校編~】

授業参観シート



たくさんの先生方に参観いただけたことを、心よりお待ちしております。

なお、本日の座談会では、1の「『身に付けさせたい資質・能力』の育成を図るために」について協議できればと考えております。

1 My mission

自分の考えを広めたり、深めたりする活動の充実

2 「身に付けさせたい資質・能力」の育成を図るために

My mission にかかる手立て・期待する児童の姿

主体性	「やまびこごっこ」の学習で、子どもたちから出た言葉をキーワードとして提示する。 自分の考えを進んで伝えたり、友達の考えを理解しようとしたりする姿。
協働性	付箋紙に自分の考えを書いて準備しておくことで、話し合いの際に自分の考えを出しやすくする。 友達の考えを聞き、自分と同じところや違うところを見つける時間を設定する。
自律性	ペア、グループ、全体と学習形態を工夫する。考えた工夫を何度も表現し、試行錯誤したり、吟味したりできる場を設ける。 自分の考えを理解してもらえるようにわかりやすく伝えようとしたり、友達の考えを何とか理解しようとしたりする姿。

3 参観者メモ

1	My mission の達成に 向けた手立ての有効性 ※ 本日の座談会では、本項目を中心 に協議を行う予定です。	
2	身に付けさせたい 資質・能力の育成について	
3	教科指導について	
4	教師としての在り方 (+の面をたくさん発見してください。)	

※ 参観者は、全ての項目を埋める必要はありません。

3年1組 国語科 学習構想案

場 所:3年1組教室

指導者:坂本 恭兵

1 My mission

全員が足並みを揃えて自力解決に入るために、見通しをどう工夫できるか

2 単元構想

単元名	つたわる言葉で表そう		
単元の目標	様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やすことができるとともに、話や文章の中で使うことで語彙を豊かにしようとする態度を養う。		
単元の評価規準	知識・技能 言語には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。	思考・判断・表現 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	主体的に学習に取り組む態度 言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに積極的に気づき、学習の見通しをもって相手に伝わる文章を書こうとしている。
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)	文章を書く時や会話する時に、相手に自分の考え方や気持ちを明確に伝えることができる言葉を選択しようとする児童		
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)			
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)	本単元で働くさせる見方・考え方 言葉の中には漠然とした表現のものや明確な表現のものがあることに気づき、国語辞典などを活用して語句を習得することで、自分自身が会話や作文を書く時などに使用している言葉の改善点を考えていく。	本単元で働くさせる見方・考え方 言葉の中には漠然とした表現のものや明確な表現のものがあることに気づき、国語辞典などを活用して語句を習得することで、自分自身が会話や作文を書く時などに使用している言葉の改善点を考えていく。	

3 本時

(1) 目標: 様子や気持ちが伝わる言葉を使って、文章を改善することができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	資質・能力	指導上の留意事項
導入	5	1. 前時までの学習を振り返る。 2. 本時の問題を捉える。	主	・児童が普段から使う言葉『やばい』を使って作成した例文を使用する。 閲 文書の中にある伝わりづらい言葉は何だろう。
	3	3. めあてを立てる。 ④ より伝わる言葉を使って、分かりやすい文を完成させよう。		
展開	10	4. 課題解決への見通しをもつ。 ・例文の分かりづらい言葉『やばい』を使用した経験を振り返る。 ・全体で発表する。 『やばい』を言い換える言葉をキーワードにする。	主協自	・例文で使われた分かりづらい言葉『やばい』を、自分がどのような場面、どのような意味で使用していたかを振り返り、交流や発表をさせる。 ・児童が発表した内容から『やばい』に代わる言葉をキーワードにして板書やタブレットに整理し、自力解決のヒントとする。
	5	5. 自力解決を図る。 ・見通しの中で出し合った分かりやすい言葉を使い、例文を書き直す。	主・自	・ロイロノートで作成した例文とキーワードを配付し、キーワードを上から貼り付けることで例文を書き直すようにする。
	10	6. 集団解決を図る。 (1) 3人班で共通点や相違点を確認し合う。 (2) 全体で考えを共有する。	協	【具体的評価規準】[知識・技能] 言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づき、よりふさわしい言葉を選ぶことができる。(方法:タブレット・発言)
終末	6	7. 学習したことをまとめること。 ④ より伝わる言葉を使って分かりやすい文を書くと、相手に気持ちや様子を詳しく伝えることができる。	主・自	・書き出しに続けてまとめを書く。
	6	8. 本時の学習を振り返る。	主・自	・視点に沿って振り返らせる。

4 「身に付けさせたい資質・能力」の育成を図るために

My mission にかかる手立て・期待される児童の姿

主体性	児童が日常生活でよく使う言葉や、実際の生活場面に即した例文を作成し、提示する。
	本時の問題に使われる分かりづらい言葉を、自分自身も普段使用しているか積極的に振り返る姿。
協働性	本時の例文で使われる分かりづらい言葉を、自分がどんな場面、どんな意味で使用していたかという視点に沿って友だちと交流させる。
	自分の考えを理解してもらえるように伝えようとしたり、友達の考えを理解しようとしたりする姿。
自律性	自分の考え方やグループで交流して理解した友だちの考えを全体共有し、キーワード化する時間を設ける。
	自分の班以外の友だちの経験を聞き、自分自身も同じような経験がなかったかを振り返ることで、一層見通しを明確にしていく姿。

4 見通し（問い合わせの共有）

point

- ・課題文に対して見通しを立てる
- ・求める方法と学習内容、アイテムを具体的に見通す
- ・キーワードが学習内容に直結することもある
- ・キーワードが見通しへと移動をする（1回目の旅）

内容・・キーワードや授業内容

方法・・一人学びから話し合いまでの活動手順（算数は解き方）

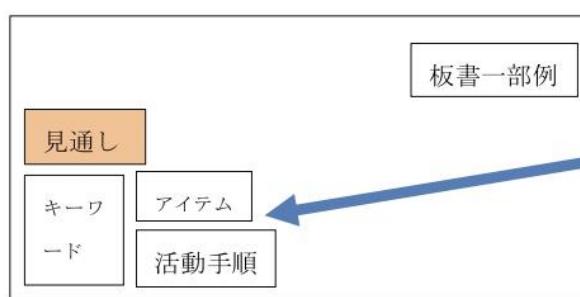
アイテム・・使用する道具（物）例）ブロック、数直線、教科書等

キーワードを手掛かりに詳細な見通しを立てることが、課題解決が難しい子どもにとって重要な手立てである。

「どのように解いていいか、方法を確認しましょ
う。」（学習方法→視覚化する）

「答えを求めるときに、大切なことは何ですか。」（学習内容
→キーワードがそのまま使えることもある。）

「資料集を使えばいいと思います。」（アイテム）
子どもが学びやすいように全教科で揃えていく！



【資料】「今、学びが変わる!!2020版あらおベーシック－改訂版－】

授業参観シート

たくさんの先生方に参観いただけたことを、心よりお待ちしております。

なお、本日の座談会では、1の「『身に付けさせたい資質・能力』の育成を図るために」について協議できればと考えております。



1 My mission

全員が足並みを揃えて自力解決に入るため、見通しをどう工夫できるか

2 「身に付けさせたい資質・能力」の育成を図るために

My mission にかかる手立て・期待する児童の姿	
主体性	児童が日常生活でよく使う言葉や、実際の生活場面に即した例文を作成し、提示する。 本時の問題に使われる分かりづらい言葉を、自分自身も普段使用しているか積極的に振り返る姿。
協働性	本時の例文で使われる分かりづらい言葉を、自分がどんな場面、どんな意味で使用していたかという視点に沿って友だちと交流させる。 自分の考えを理解してもらえるように伝えようしたり、友達の考えを理解しようしたりする姿。
自律性	自分の考え方やグループで交流して理解した友だちの考えを全体共有し、キーワード化する時間を設ける。 自分の班以外の友だちの経験を聞き、自分自身も同じような経験がなかったかを振り返ることで、一層見通しを明確にしていく姿。

3 参観者メモ

1	My mission の達成に向けた手立ての有効性 ※ 本日の座談会では、本項目を中心協議を行う予定です。	
2	身に付けさせたい資質・能力の育成について	
3	教科指導について	
4	教師としての在り方 (+の面をたくさん発見してください。)	

※ 参観者は、全ての項目を埋める必要はありません。

たんぽぽ学級 特別活動(学級活動) 学習構想案

場 所:たんぽぽ学級教室

指導者:村上 正順

1 My mission

対話的な話し合いをどうつくりだすか

2 単元構想

単元名	新入生をむかえる会を計画しよう		
単元の目標	理由を明確にして自分の考えを伝えたり、自分と異なる意見を受け入れたりして合意形成を図り、協力して一つのイベントを作り上げる力を育む。		
単元の評価規準	知識・技能 みんなで楽しい「新入生をむかえる会」を作ることの意義を理解し、学級集団としての意見をまとめ、みんなで協力しながら活動に取り組んでいく。	思考・判断・表現 楽しい「新入生をむかえる会」を作るために話し合い、自己の役割や集団としてのより良い方法などについて考え、判断し、協力し合って実践している。	主体的に学習に取り組む態度 「新入生をむかえる会」の取組に関心を持ち、見通しを持ったり、振り返ったりしながら自己の考えを生かし、他の児童と協力して意欲的に取り組もうとしている。
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
目的や内容、役割分担をみんなで話し合い、協力して計画的に取り組むことで、一つのイベントを成功させることができる喜びを実感している児童。			
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
協力して一つの目標を達成するために必要なことは何かを考えよう。		お互いが考えを主張するときには、理由も話し、どこで合意形成ができるかを考えると、双方とも楽しく活動できること。	

3 本時

(1) 目標:みんなで協力して取り組める「新入生をむかえる会」にするために、自分の思いを伝えたり、友だちの考えを受け入れたりしながら話し合いをする。

(2) 展開

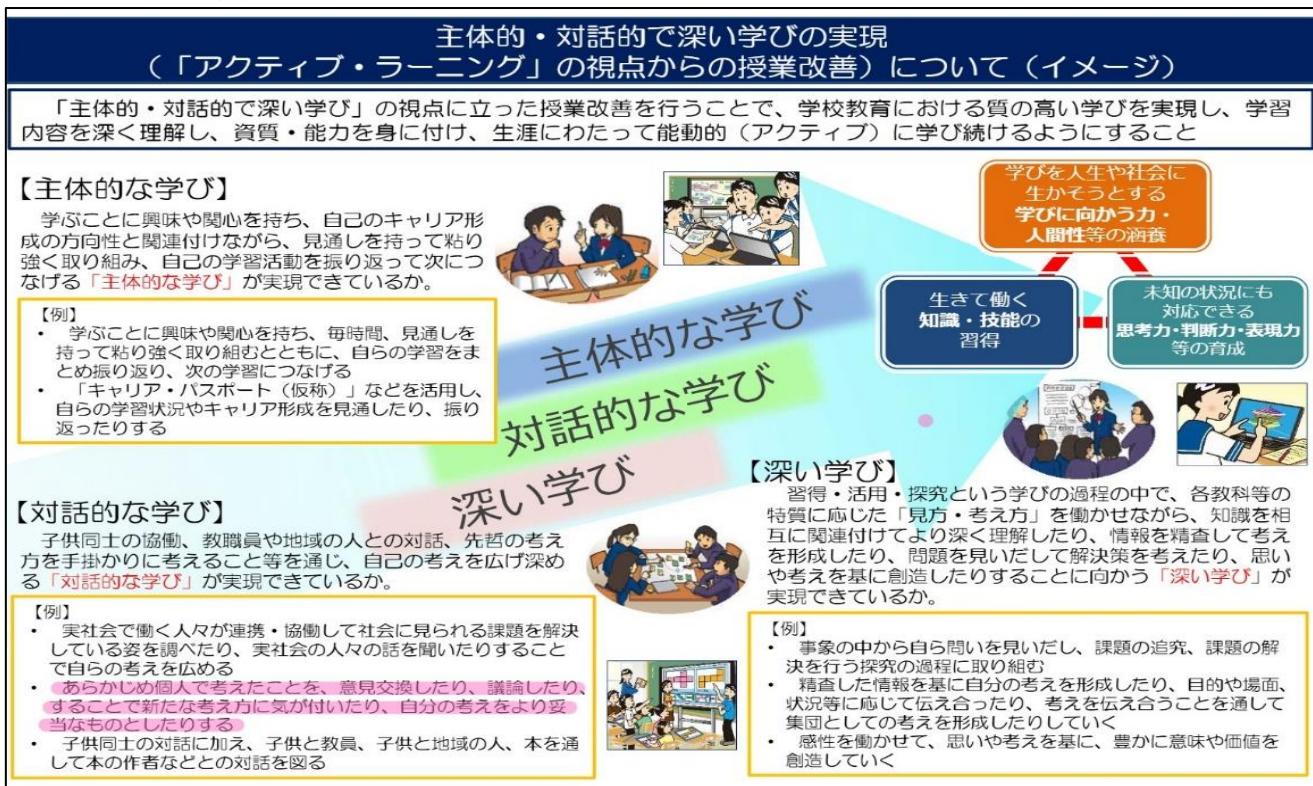
過程	時間	学習活動	資質・能力	指導上の留意事項
導入	5	1 話し合う内容について知る。 ⑥みんなと協力してとりくめる「新入生をむかえる会」を考えよう。	主	・取り組みのめあてと取り組むことをまず決定する。
展開	30	2 「新入生をむかえる会」について話し合う。 (1)どんなプログラム(活動)を入れたらみんなと協力して取り組める「新入生をむかえる会」になるかを個人で考える。 (2)考えたプログラムと理由をみんなに発表したり、もっと詳しく聞きたいことを質問したりして、一人一人の思いを明らかにする。 (3)みんなで交流したプログラムの中から、「新入生をむかえる会」の実際のプログラムを決める。 (4)決定したプログラムを見て、どのような係(役割)がいるかを考え、発表する。	主 協・自 協 主・協	・プログラムの手がかりになるように短冊に活動を書いて掲示しておく。 ・その活動を選んだ理由も述べさせる。 ・聞いている人は、具体的にどんなことをするかを質問するようにして、活動のイメージを共有できるようにする。 ・同じような活動は1つにまとめられないかを検討させる。 ・具体的な会のイメージを確認して、どんな係(役割)がいるかを考えさせる。
	3	3 決まったことを確認する。		【評価規準】[知・理] めあてに沿って、活動内容や係などを話し合っている。(方法:観察・発言)
終末	7	4 学習したことをまとめる。 ⑨みんなと協力してとりくめる「新入生をむかえる会」にするためには、自分の考えを伝えたり、相手の考え方やわけを聞いたりして、考えをまとめることが大切である。 5 本時の学習を振り返る。	主・自	

4 「身に付けさせたい資質・能力」の育成を図るために

My mission にかかる手立て・期待される児童の姿

主体性	教師が最初から内容を提示するのではなく、子どもたちが今までの経験から自分がやりたい活動を考え、発表せないようにする。また、友達の意見にも質問を出させる。 自分の考え方や意見、疑問を進んで伝えたり、友達の考え方や意見、疑問を理解しようとしたりしている姿。
協働性	自分の考えた活動を各自ホワイトボードに書き、車座になって交流させる。 自分の考え方や意見、疑問を理解してもらえるように分かりやすく伝えようとしたり、友達の考え方や意見、疑問を理解しようとしたりしている。
自律性	お互いの意見が一致できない時は、それぞれの活動よいところを取り入れて一つの活動にできないかアドバイスする。 出された考え方や意見から、めあてに向けて粘り強く考察し、最後まで諦めずに課題解決を図ろうとしている。

5 実践の根拠となる資料



【資料1】主体的・対話的で深い学びの実現（「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ） 文科省資料】

中で、前半の時間で話し合いを行い、後半の時間を使って決めたことを実践することも有効である。

中学年では、理由を明確にしたわかりやすい発言、自分と異なる意見の受容、公平な判断ができるよう特に配慮する。また、学級会において提案理由を踏まえ、自分もよくみんなもよいものとなるよう合意形成を図り、決まったことをみんなで協力し実践できるように適切な指導をすることが大切である。なお、自分の考え方と異なる意見に決まっても、気持ちよく協力することの大切さについて実践を通して理解できるよう指導する必要がある。集団の中の仲間としての結び付きが強くなる反面、集団同士の対立も見られる時期であることから、話し合いや実践を積み重ね、協働して取り組む活動を充実させていく必要がある。

高学年では、出された意見の一つ一つを大切に受け止め、意見の背景にある相手の立場や考え方を理解できるように特に配慮する。また、出された意見を基にして、組み合わせたり、よいところを取り入れて新たな考え方を生み出したりするなど、創意工夫を生かして合意形成を図ることができる活動となるよう配慮する。建設的な話し合いの求められる高学年においては、一連の活動を振り返り、次の活動に生かしていくことを意識した取組が大切になる。

学級活動「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」については、低学年では、児童が幼児期に経験してきたことを踏まえつつ、健康や安全に気を付け、自分勝手な行動をとらずに、規則正しい生活をしたり、自分がやらなければならない勉強や仕事をしっかり行ったりできるようにし、目標を決めて進んで生活や学習に取り組む活動となるよう特に配慮する。

中学年では、よく考えて行動し、節度ある生活をするとともに、目標を立てて自分でやろうと決めたことは最後までやり遂げができるようにし、自分の特徴に気付き、よいところを伸ばし集団の中で生かすことができる活動となるよう特に配慮する。

高学年では、日常の生活や学習についてより高い目標を立て、自分の生活を見直すなどして目標をもって粘り強く努力することができるようになり、自他の特徴に気付き、よいところを伸ばし合うことができる活動となるよう特に配慮する。

学級活動「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」については、低学年では、年度当初などにおける学級や学校生活への不安を解消するための方法を話し合い、自分にできる方法を決め、目標をもって取り組む活動となるよう配慮する。

中学年では、自分のよさを生かしながら、協力して楽しい学級生活が送れるよう具体的な解決方法や目標を決めて、一定期間継続して取り組み、成長を感じができる活動となるよう配慮する。

【資料2 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編】

授業参観シート

たくさんの先生方に参観いただけたことを、心よりお待ちしております。

なお、本日の座談会では、1の「『身に付けさせたい資質・能力』の育成を図るために」について協議できればと考えております。



1 My mission

対話的な話し合いをどうつくりだすか

2 「身に付けさせたい資質・能力」の育成を図るために

My mission にかかる手立て・期待する児童の姿

主体性	教師が最初から内容を提示するのではなく、子どもたちが今までの経験から自分がやりたい活動を考え、発表させるようにする。また、友達の意見にも質問を出させる。 自分の考え方や意見、疑問を進んで伝えたり、友達の考え方や意見、疑問を理解しようとしたりしている姿。
協働性	自分の考えた活動を各自ホワイトボードに書き、車座になって交流させる。 自分の考え方や意見、疑問を理解してもらえるように分かりやすく伝えようとしたり、友達の考え方や意見、疑問を理解しようとしたりしている。
自律性	お互いの意見が一致できない時は、それぞれの活動よいところを取り入れて一つの活動にできないかアドバイスする。 出された考え方や意見から、めあてに向けて粘り強く考察し、最後まで諦めずに課題解決を図ろうとしている。

3 参観者メモ

1	My mission の達成に 向けた手立ての有効性 ※ 本日の座談会では、本項目を中心 に協議を行う予定です。	
2	身に付けさせたい 資質・能力の育成について	
3	教科指導について	
4	教師としての在り方 (+の面をたくさん発見してください。)	

※ 参観者は、全ての項目を埋める必要はありません。

4年1組 道徳科 学習構想案

場所:4年1組教室
指導者:徳永 朝美

1 My mission

全員が参加するグループ活動を行う

2 学習構想

主題名	正直はだれのため(内容項目 A(2)正直, 誠実)				
ねらい と教材	(1)ねらい 不正をして勝ったとしても、結局は後悔にさいなまれる新次の気持ちを考えることから、正直に明るい心で生活をしようとする心情を育てる。 (2)教材名 新次のしうぎ 出典:「生きる力(日本文教出版)」				
評価の視点	評価の視点1		評価の視点2		
	将棋で不正をして勝ったとしても結局は後悔に苛まれる新次の気持ちを考えようとしている。		正直で明るい心で生活しようとする大切さについて考えを深めようとしている。		
目指す児童の姿					
過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活しようとする児童					
主題に迫る学習課題(本時)		本主題で働かせる見方・考え方			
正直に生きることとは、どんなことだろう。		新次の気持ちを考えることで、不正をして勝っても後悔する気持ちを考えることから、正直でありたい、よりよくありたい自分に関わる視点から、多面的、多角的に考えを深めていくこと。			

3 本時の学習

(1)ねらい:不正をして勝ったとしても、結局は後悔にさいなまれる新次の気持ちを考えることから、正直に明るい心で生活をしようとする心情を育てる。

(2)展開

過程	時間	学習活動	資質・能力	指導上の留意事項
導入	5	1.本時の学習課題を知る。 (1)事前アンケートをもとに、嘘やごまかしてしまった経験を交流させる。 (2)教材の概要を把握する。	主	・「うそやごまかしてしまった経験」について、事前にどった児童アンケートの結果を全体で共有して、本時のねらいを確認する。 【考える】 正直に生きることとは、どんなことだろう。
展開	25	2.教材を読み、道徳的価値について考える。 (1)新次の心にあくまのかげがさした時の新次の考えを想像する。 (2)伊三郎おじさんに勝った時の新次の気持ちを考える。 (3)雨の中、涙をこぼしながら帰る新次の気持ちが込み上げてきたのかを考える。 ・班になり、自分たちの考えをホワイトボードにまとめる。 ・ワールドカフェを行い、他の班で出了された考えなどを聞き、様々な考えがあることを共有する。 ・全体で共有する。	主 協 自	・人物や状況の概略を伝えてから読み聞かせる。 ・「心の数直線」を使用し、満足→ピンク、後悔→青の割合が多くなるように児童に説明する。 ・新次が勝った時の「心の数直線」を提示する。 ・主発問時の「心の数直線」の色がどう変化したのか確認する。 ・集団解決(ワールドカフェを行い、全員が参加する集団解決を図る。) 【評価の視点1】 将棋で不正をして勝ったとしても結局は後悔に苛まれる新次の気持ちを考えようとしている。〈発言・道徳ノート〉 【評価の視点2】 正直で明るい心で生活しようとする大切さについて考えを深めようとしている。〈発言・道徳ノート〉
終末	15	3.自分自身を振り返る。	主 自	・友達の意見などを聞いて、正直に行動することのよさについて自分との関りで考え、ノートに書く。

4 「身に付けさせたい資質・能力」の育成を図るために

My mission にかかる手立て・期待される児童の姿

主体性	全員が自分の考えや意見、疑問などを進んで伝えるために、ワールドカフェを行う。4人班という少人数にすることで、自分の考えや意見を伝えやすい環境をつくる。 活発な話し合いを行い、進んで考察し表現する姿。
協働性	相手に分かりやすく伝えるために、「心の数直線」を使う場面を設定する。 友達の考えや意見を聞いて、理解しようとする姿。また、自分の考えが友達の意見と違った場合などに、相手に聞いて理解しようとする姿。
自律性	友だちの意見を聞いて、どう思ったのかを尋ねたり、質問したりする場面を設定する。 ワールドカフェを行う際に、自分の考えを理解してもらえるよう粘り強く伝える姿や、自分の考えと違う友達の話を理解しようとする姿。

2 正直、誠実

〔第3学年及び第4学年〕

過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。

■ 第3学年及び4学年

この段階においては、特に他者に対してうそを言ったりごまかしたりしないことに加えて、そのことが自分自身をも偽ることにつながることに気付かせることが求められる。その上で、正直であることの快適さを自覚できるようにすることが大切である。さらに、過ちをおかしたときには、素直に反省し、そのことを正直に伝えるなどして改めようとする気持ちを育むことも求められる。このことは、たとえ仲の良い仲間集団の中にあっても、周囲に安易に流されない強い心を養う要ともなる。

指導に当たっては、正直であるからこそ、明るい心で伸び伸びとした生活が実現できることを理解し、この段階の活動的な特徴を生かしながら、児童それぞれが元気よく生活できるようにし

【資料1 学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編】

point

6 集団解決



- ・「集団解決」とは、「自力解決」で個人が考えたことを仲間と交流し、自分の考えを広げたり深めたりする活動である。
- ・ペア、班学習等、ねらいを子どもと共有して授業に取り入れることが必要。

① ペア学習

・情報交換タイム ・メモの習慣

② 班学習

- ・司会者方式 ・ワークショップ
- ・ノート回し ・ノート展覧会
- ・ホワイトボード
- ・共通点、相違点の確認



お互いの考え方や解決方法等について、共通点や相違点を確認し合う活動

- ・子どもの反応が少ない学級や人数の少ない学級は、全員が発表出来るワークショップ形式で進めるとよい。
- ・ノート回しで話し合いを進めていくと全ての子どもにノートを書く習慣ができる。ノート展覧会で全員のノートから情報を得る方法もある。

【資料2 「今、学びが変わる!!2020版あらおベーシック 改訂版-】

授業参観シート

たくさんの先生方に参観いただけたことを、心よりお待ちしております。

なお、本日の座談会では、1の「『身に付けさせたい資質・能力』の育成を図るために」について協議できればと考えております。



1 My mission

全員が参加するグループ活動を行う

2 「身に付けさせたい資質・能力」の育成を図るために

My mission にかかる手立て・期待する児童の姿

主体性	全員が自分の考えや意見、疑問などを進んで伝えるために、ワールドカフェを行う。4人班という少人数にすることで、自分の考えや意見を伝えやすい環境をつくる。 活発な話し合いを行い、進んで考察し表現する姿。
協働性	相手に分かりやすく伝えるために、「心の数直線」を使う場面を設定する。 友達の考えや意見を聞いて、理解しようとする姿。また、自分の考えが友達の意見と違った場合などに、相手に聞いて理解しようとする姿。
自律性	友だちの意見を聞いて、どう思ったのかを尋ねたり、質問したりする場面を設定する。 ワールドカフェを行う際に、自分の考えを理解してもらえるよう粘り強く伝える姿や、自分の考えと違う友達の話を理解しようとする姿。

3 参観者メモ

1	My mission の達成に向けた手立ての有効性 ※ 本日の座談会では、本項目を中心協議を行う予定です。	
2	身に付けさせたい資質・能力の育成について	
3	教科指導について	
4	教師としての在り方 (+の面をたくさん発見してください。)	

※ 参観者は、全ての項目を埋める必要はありません。

5年1組 社会科 学習構想案

場 所:5年1組教室

指導者:中村 界斗

1 My mission

子どもたちの問い合わせをどう生み出すか

2 単元構想

単元名	森林とともに生きる		
単元の目標	森林は、その育成や保護に従事する人々の様々な工夫と努力によって守られ、国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解するとともに、その課題についても思考し議論することを通して、我が国と国土に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。		
単元の評価規準	知識・技能 森林資源の分布やはたらきなどについて地図帳や統計などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、国土の環境を理解している。	思考・判断・表現 森林資源や分布やはたらきなどに着目して、問い合わせを見いだし、国土の環境について考え表現している。	主体的に学習に取り組む態度 国土の森林資源と国民生活との関連について、予想や学習計画を立て、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
森林資源が果たす役割について多角的に考え、その育成や保護に従事する人々の工夫や努力を理解することを通して、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に活かそうとする児童			
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)	本単元で働かせる見方・考え方		
森林と、わたしたちのくらしは、どのような関わりがあるのだろう。	森林資源が果たす役割や、その育成・保全に従事する人々の工夫や努力に着目して、そこに存在する課題について考えたことを説明したり、自らの生活と関連付けたりすること。		

3 本時

(1)目標:森林が持つ役割やはたらきを理解する。

(2)展開

過程	時間	学習活動	資質・能力	指導上の留意事項
導入	10	1. 前時までの学習を振り返る。 2. 本時の問題を捉える。 ・森林ってなぜ大切なのかな? ・なぜ木材自給率が少し上がってきてるのかな? <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">④ どうして森林はなくならず、守られ続けているの?</div> 3. めあてを立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">④ 森林がもつ役割や、森林がなくてはならない秘密をさぐろう。</div>	主	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で考えることはどんなものかをきちんと理解できるようにするために、資料の読み取り方を全員で確認する。 ・一人一人が「問い合わせ」を持つことができるようるために、生活体験や既習事項とのズレを生み出すような資料を提示したり、発問をしたりする。
展開	25	4. 課題解決への見通しをもつ。 ・森林がなかったらどうなるか考えてみよう。 5. 自力解決を図る。 【分かったこと・捉えたこと】 ・森林がなくなると、動物の住処がなくなること。 ・森林がなくなると、土砂崩れが起きやすくなる。 【考えたこと】 ・森林がなくなると、私たちのこれから的生活で困ることが多くてくる。だから森林が減りすぎることはよくないことだと考えた。 6. 集団解決を図る。 (1) グループで分かったことや、考えたことを出し合い、まとめる。 (2) 全体で考えを共有し、一般化を図る。	主・自 主・自 協	<ul style="list-style-type: none"> ・以下のものをキーワードとして活用する。 比べて 氷 空気 動物 役割 秘密 ・資料を見て分かったこと(事実)と、それから自分で考えたこと(考え)を分けることを意識させることで、問い合わせへの答えが明確になるようになる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【具体的評価規準】[知・技] 複数の資料から必要な情報を読み取り、様々な森林の働きを理解している。 (方法:ノート・発言)</div>
終末	10	7. 学習したことをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">④ 森林は、空気をきれいにしたり、災害を防いだりするなどの役割がある。</div> 8. 本時の学習を振り返る。	主・自	<ul style="list-style-type: none"> ・一般化したことを参考に自分でまとめる。
			主・自	・視点に沿って振り返らせる。

4 「身に付けさせたい資質・能力」の育成を図るために

My mission にかかる手立て・期待される児童の姿	
主体性	資料に対する疑問を引き出すためのズレを生み出す。 ①どんどん便利なお店や施設ができているのに、なぜ、これだけの森林が残っているのか。 ②それにも関わらず木材の自給率は約42%となっており、輸入にたよっている現状があるのはなぜか。 資料に対しての疑問を持ち、持った疑問や気づいたことを進んで表現する姿。
協働性	どうすれば問題を解決することができるか、班で話し合う時間を確保する。 友だちと意見や考えを伝え合うことで、問い合わせに対する理解をより深めたり、疑問や調べたいことをより明確にしたりする姿。
自律性	疑問や分かっていること、問われていること、どのようにして考えるべきかなどを、全体で共有する時間を設け、誰がどのように向き合っているかがわかるようにする。 じっくり問い合わせに向き合い、何を調べたり考えたりすればよいかを明確にする姿。

5 実践の根拠となる資料

◆ポイント2

子供の「なぜ」「おそらく」(疑問や予想等)が生まれる導入の工夫

1 「なぜ」「おそらく」が生まれる導入の工夫について

- 主体的に学びに向かう子供たちの姿へとつなげるためには、子供が発する「なぜ」「おそらく」というつぶやきを拾い、それを生かして学習を方向付けながら問い合わせ(学習課題・学習問題)としてまとめていくことが大切です。子供の疑問や興味・関心を把握し、いかに導入で生かすことができるかが鍵となります。
- ここでは、導入場面での例を挙げていますが、子供たちが主体的に学びに向かうとする時に大切な「なぜ」「おそらく」という課題意識は、展開の場面や終末の場面など、様々な場面で生まれます。子供たちの知的好奇心を高め、「わくわく」しながら意欲的に学びに向かわせる働きかけが大切です。

2 問いを引き出すことについて

- 子供たちが問い合わせをもつようになるには、導入場面で子供たちの知的好奇心や興味・関心を高めることが重要です。そのためには、子供たちが「わくわく」する教材・教具等の工夫・準備と効果的な提示が必要となります。
- 子供たちが疑問を持つ教材、子供たちの驚きや発見がある教材、子供たちの矛盾や困惑、葛藤を引き出し、心をゆさぶる教材などとの出会いを工夫すれば、問い合わせが生まれ、学習が動機付けられ、「やってみたい」「調べたい」という学ぶ意欲が高まります。

3 子供から「問い合わせ」を引き出すポイント

- (1) 教師自らが「わくわく」するものは、学習者も「わくわく」するものです。自分が考えた手立てで「わくわく」するものか、子供の立場に立って考えたり、事前にやつてみたりしましょう。
- (2) 子供の「なぜ」「おそらく」が生まれる言葉かけや教材・教具の提示を
学習者が疑問をもったり、発見したりすることができる教材・教具等を提供することで好奇心が高まります。子供の生活体験や既習事項を基に、問い合わせを引き出すためのきっかけとなる言葉かけや文章、図や写真、表やグラフ及びイラストや实物などの教材・教具等を作成し提示の仕方を工夫してみましょう。
- (3) 答えのない問い合わせ創造するテーマなどを
誰も答えを知らないものは、正解・不正確といった発想がないので、自由な発想を養う機会になります。また、他者と自分に問い合わせ、問い合わせ直し、問い合わせ続けることで、答えなき問い合わせを繰り返し、新しい考え方や価値などを創造する力の育成にもつながります。

子供が問い合わせをもつことにより、こんな効果が期待できます

① 学びに向かう力が高まる

教師から与えられる学習課題に取り組む、教師の発問に対して答えるという授業では、子供たちは学習課題を自分ごととして捉えられません。自分ごととして捉えていない学習課題に対しては、主体的・意欲的に取り組むことが難しくなります。「なぜだろう」「不思議だ」「知りたい」と課題意識をもち、学習課題を自ら立てることができると、子供たちが問い合わせを自分ごととして捉え、学びに向かう力が高まります。

② 問いを引き出す力が高まる

子供たちが、「自分に問う」「教材に問う」「他者に問う」など、問い合わせをする経験を積んでいくことが大切です。そうすることで子供たちは、問い合わせに対して、すぐ解決できそうな問い合わせ、みんなで協力して解決する必要がある問い合わせなど、学習を見通す力が高まっていきます。

③ 主体的に学習に取り組む態度が高まる

子供たちは、自分の学びを「何を」「どのように」「どうして」と問うことで、現在の自分の知識を整理することができます。
また、自分は「何が知りたいのか」「なぜ知りたいのか」「知ることによってどうするのか」「知ることによって何ができるのか」「知ることによって何が変わるものか」といったことを考えるきっかけが生まれ、課題解決に向かって粘り強く取り組んだり、自らの学びを調整したりしようとする態度が高まります。

【資料1 熊本の学び推進プラン】

児童の「なぜ」「おそらく」(疑問や予想等)が生まれる 導入 の工夫!

児童の問い合わせを引き出すためには?

教材・教具等の工夫・準備
児童が疑問をもったり、発見したりすることができる教材・教具等を提供することで好奇心を高めましょう。

教材・教具等の効果的な提示
問い合わせを引き出すためのきっかけとなる言葉掛けや教材・教具等の提示の仕方を工夫しましょう。

児童の問い合わせを整理し、めあて・学習課題として設定するには?

つぶやきを生かす工夫
児童の「なぜ」「おそらく」というつぶやきを拾い、それを生かしてめあて・学習課題を設定しましょう。

分かりやすく提示
児童と、めあて・学習課題を共有できるように分かりやすく提示しましょう。

本時の目標との整合性
本時の目標とめあて・学習課題との整合性を図りましょう。

詳しくは「KYOサポサイト」「導入の工夫」→

ここも重要な!

学習ルールの共有
・チャイムで授業をスタートするなど、発達段階に応じた学習ルールを共有しましょう。
・考える場面と話し合う場面のメリハリをつけましょう。

UDの視点・ICT活用
・指示は、ゆっくり、はっきり、短い言葉にしましょう。
・ICTを活用し、学習内容などを視覚的に確認できるようにしましょう。

社会では...
児童が、社会的事象から驚きや疑問を感じることができる資料を準備することが大切です。

- ① 数量的な驚き**
「多い!」「少ない!」等の児童の驚きや疑問を生む資料を準備することで、児童の好奇心が高まります。
- ② 生活体験や既習事項とのずれ**
児童の経験や既習知識とのずれを生むような資料を準備することで、児童の考えをゆさぶることができます。
- ③ 社会に見られる課題等**
社会的事象を通して社会に見られる課題等と出合わせることで、課題解決に向けた意欲が高まります。

【資料2 KYO サポ ~小学校編~】

19

授業参観シート

たくさんの先生方に参観いただけたことを、心よりお待ちしております。

なお、本日の座談会では、1の「『身に付けさせたい資質・能力』の育成を図るために」について協議できればと考えております。



1 My mission

子どもたちの問い合わせをどう生み出すか

2 「身に付けさせたい資質・能力」の育成を図るために

My mission にかかる手立て・期待する児童の姿

主体性	資料に対する疑問を引き出すためのズレを生み出す。 ①どんどん便利なお店や施設ができているのに、なぜ、これだけの森林が残っているのか。 ②それにも関わらず木材の自給率は約42%となっており、輸入にたよっている現状があるのはなぜか。
	資料に対しての疑問を持ち、持った疑問や気づいたことを進んで表現する姿。
協働性	どうすれば問題を解決することができるか、班で話し合う時間を確保する。
	友だちと意見や考えを伝え合うことで、問い合わせに対する理解をより深めたり、疑問や調べたいことをより明確にしたりする姿。
自律性	疑問や分かっていること、問われていること、どのようにして考えるべきかなどを、全体で共有する時間をつけ、誰がどのように向き合っているかがわかるようにする。
	じっくり問い合わせ合い、何を調べたり考えたりすればよいかを明確にする姿。

3 参観者メモ

1	My mission の達成に 向けた手立ての有効性 ※ 本日の座談会では、本項目を中心 に協議を行う予定です。	
2	身に付けさせたい 資質・能力の育成について	
3	教科指導について	
4	教師としての在り方 (+の面をたくさん発見してください。)	

※ 参観者は、全ての項目を埋める必要はありません。

6年2組 算数科 学習構想案

場所:6年2組教室
指導者:守屋 数人

1 My mission

全員が自分なりの見通しをもつためには

2 単元構想

単元名	データを使って生活を見なおす		
単元の目標	身の回りにある不確定な事象で確かめてみたいことについて、そのことを統計的に解決していく問題として設定し、目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断したり、その妥当性について考察したりする力を養うとともに、統計的な問題解決の過程について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど統計的な問題解決の方法について理解している。			
目的に応じてデータを集め分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察している。			
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
・目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど、統計的な問題解決の方法を知ること。 ・目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察できる児童。			
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)	本単元で働くさせる見方・考え方		
代表値からデータの特徴や傾向を読み取ろう。	データの特徴や傾向に着目し、問題に対する結論を考え、代表値などを用いて判断し、結論や問題解決の過程が妥当であるかどうかを別の観点や立場から批判的に考察すること。		

3 本時

(1) 目標: 代表値からデータの特徴や傾向を読み取ろう。

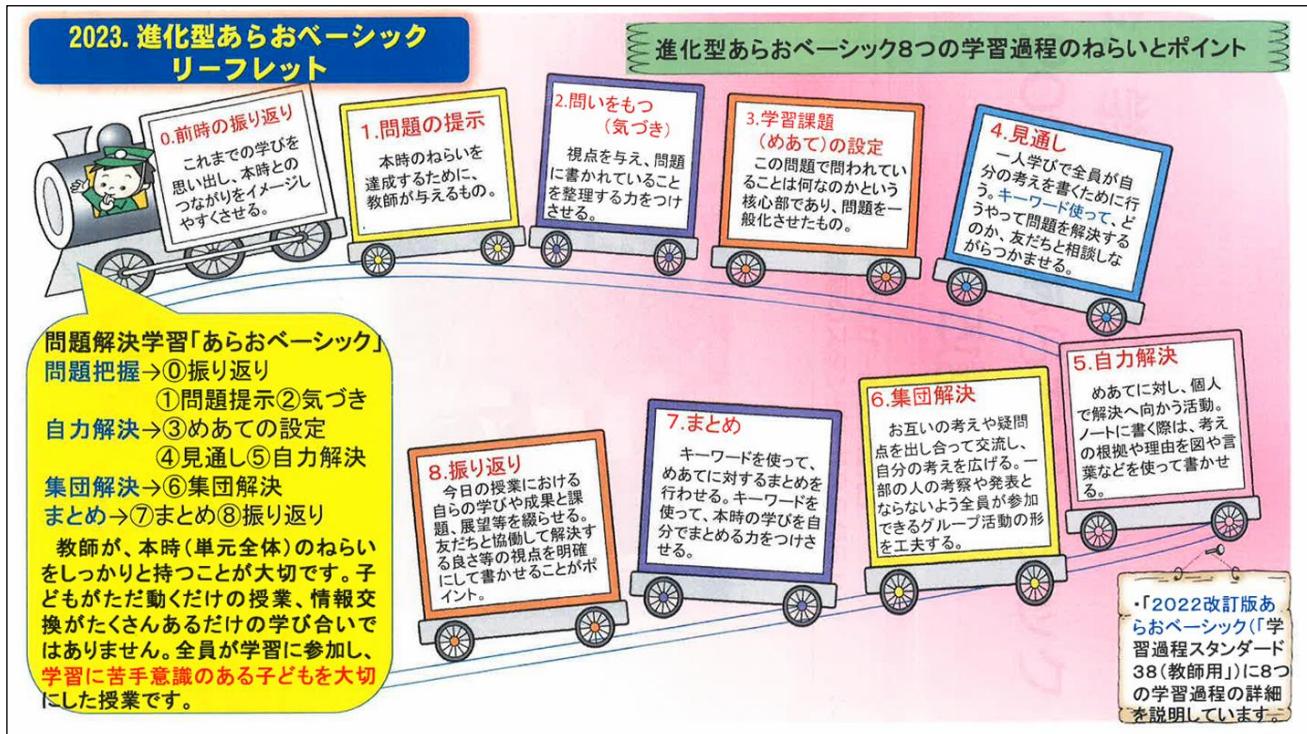
(2) 展開

過程	時間	学習活動	資質・能力	指導上の留意事項
導入	5	1. 前時までの学習を振り返る。 2. 本時の問題を捉える。	主	
		問題 学年全体の家庭学習の時間についてどのようなことが分かりますか。		
展開	30	3. めあてを立てる。 ④ 表の値から分かることを読み取ろう。		
		4. 課題解決への見通しをもつ。 ・中央値や最頻値は目標時間より短いから、…。 ・平均値は、…。 5. 1人学び 6. 学び合い (1) 班で交流する。 (2) 全体で考えを共有する。 7. 学び合い2 結論や問題解決の過程が妥当であるかどうかを批判的に考える。	主 主・自 主・協 主・協	・以下のものをキーワードとして活用する。 最頻値 中央値 平均値 最大の値 最小の値 代表値 曜日ごとのヒストグラム 【具体的評価規準】[思判準] データの特徴や傾向に着目し、問題に対する結論を考え、代表値などを用いて判断し、結論や問題解決の過程が妥当であるかどうかを別の観点や立場から批判的に考察すること。 (方法: ノート・発言)
終末	10	8. 学習したことをまとめる。 ④ 表の値からは平均値が目標時間よりも少ないことが分かった。	主・自	
		9. 本時の学習を振り返る。	主・自	・視点に沿って振り返らせる。

4 「身に付けさせたい資質・能力」の育成を図るために

My missionにかかる手立て・期待される児童の姿	
主体性	解決のための着眼点である代表値をキーワードとして用意し、見通しを持つ場を設ける。 キーワードを使って問題を解決するための見通しを進んで考えている姿。
協働性	他者と対話しながら見通しを持つ場を設ける。 見通しが持てない児童に対し、周りの子どもたちがヒントを出そうとする姿。
自律性	子どもが興味関心を持つような生活場面に即した問題場面を設定する。 自分の生活を見直すために、どうやって問題を解決するのか、キーワードを使って粘り強く考える姿。

5 実践の根拠となる資料



【資料1 「2023. 進化型あらおベーシック リーフレット】

4 見通し（問い合わせの共有）

point

- ・課題文に対して見通しを立てる
- ・求める方法と学習内容、アイテムを具体的に見通す
- ・キーワードが学習内容に直結することもある
- ・キーワードが見通しへと移動をする（1回目の旅）

内容・・キーワードや授業内容

方法・・一人学びから話し合いまでの活動手順（算数は解き方）

アイテム・・使用する道具（物）例）ブロック、数直線、教科書等

キーワードを手掛かりに詳細な見通しを立てることが、課題解決が難しい子どもにとっては重要な手立てである。

「どのように解いていけばよいか、方法を確認しましょう。」（学習方法→視覚化する）
 「答えを求めるときに、大切なことは何ですか。」（学習内容→キーワードがそのまま使えることもある。）
 「資料集を使えばいいと思います。」（アイテム）
 子どもが学びやすいように全教科で揃えていく！

見通し
キーワード
アイテム
活動手順

板書一部例

【資料2 「今、学びが変わる!!2020版あらおベーシック -改訂版-】

授業参観シート



たくさんの先生方に参観いただけたことを、心よりお待ちしております。

なお、本日の座談会では、1の「『身に付けさせたい資質・能力』の育成を図るために」について協議できればと考えております。

1 My mission

全員が自分なりの見通しをもつためには

2 「身に付けさせたい資質・能力」の育成を図るために

My mission にかかる手立て・期待する児童の姿

主体性	解決のための着眼点である代表値をキーワードとして用意し、見通しを持つ場を設ける。 キーワードを使って問題を解決するための見通しを進んで考えている姿。
協働性	他者と対話しながら見通しを持つ場を設ける。 見通しが持てない児童に対し、周りの子どもたちがヒントを出そうとする姿。
自律性	子どもが興味関心を持つような生活場面に即した問題場面を設定する。 自分の生活を見直すために、どうやって問題を解決するのか、キーワードを使って粘り強く考える姿。

3 参観者メモ

1	My mission の達成に 向けた手立ての有効性 ※ 本日の座談会では、本項目を中心 に協議を行う予定です。	
2	身に付けさせたい 資質・能力の育成について	
3	教科指導について	
4	教師としての在り方 (+の面をたくさん発見してください。)	

※ 参観者は、全ての項目を埋める必要はありません。

